

【日時】 令和3年7月15日（木） 10時～12時

【場所】 文京シビックセンター4階 シルバーホール 会議室B

【出席者】 高山 直樹 (自立支援協議会 会長) オンライン参加

志村 健一 (自立支援協議会 副会長) オンライン参加

福田 美沙子 (身体障害)

竹間 誠次 (知的障害)

河野 孝志 (身体障害)

小西 慶一 (身体障害)

畑中 貴史 (区委員)

【事務局】 美濃口、關、林、太田 (文京区障害者基幹相談支援センター)

【欠席者】 永野 栄一郎 (知的障害)

【補助人】 松下 功一

### 【開会前に事務局からの連絡】

- ・ 緊急事態宣言下の開催のため、オンラインとのハイブリッド開催で実施
- ・ 相談支援専門員の現任研修受講者がオンラインで傍聴している旨を説明
- ・ 会議録作成のため、会議内容の録音についての確認
- ・ 配布資料の確認

### 1. 開会の挨拶 協議会会長

今文京区の自立支援協議会の中には五つの部会がある。各部会に当事者の方の声を届け、自立支援、政策あるいは制度に繋がっていきたい。改めて今までやってきた当事者部会を振り返りながら、より発展していけるよう今年度一緒に考えていきたい。自由に忌憚のない意見を出していただきたい。また、コロナ禍が続くと仮定し、工夫しながら部会を実施していき、当事者の方が生活の中で直面している問題をお伝えいただくのも大事。コロナ禍だからこそ、本当に大切なもの、支援があるのではないかと。

(コロナ禍における生活状況やワクチン接種について)

- ・仕事上のお客さんや外出の機会は減ってしまったが、それ以外の普段の生活は変わらず。ワクチン接種の案内が来たが、封筒に点字で書いていなかったの、置いたままにしてしまった。選挙の際は封筒に分かりやすく書いてあった。
- ・コロナで旅行に行けなくて残念。マスクで暑い。ワクチンは一回目が終わった。
- ・最近退院してきたばかりだが仕事が忙しい。直近ではつくばエクスプレスのバリアフリーを担当。コロナで人と接する機会が減っていて寂しい。ワクチンは今日の午後受ける。
- ・体調があまり良くないのでご迷惑を掛けてしまうかもしれない。リハビリに行くが、皆さんコロナに対して色々と気をつけてくれている。ワクチンは先週一回目が終わった。打った時は痛くなかったが、帰宅後偏頭痛のような痛みがあった。
- ・役所内ではコロナ禍で変わったことは、特段聞いていないが、現場の施設の方がいいようだ。ワクチン接種については、基礎疾患がある方は優先接種の対象。知的・精神の手帳をお持ちの方は優先対象で、障害福祉課から案内する。特別な配慮が必要な方には個別に案内をしている。封筒への点字の対応だが、国をあげての突貫工事なので配慮が行き届いていない。可能な範囲で個別に連絡する等の対応を行っている。

2. 事務局より 今年度の事務局体制について  
2名が継続、2名が入職し、事務局に加わる。

3. 部会長の互選及び副部会長の指名  
小西氏が部会長、福田氏が副部会長に決定。

4. 議題

(1) 令和3年度障害当事者部会の検討事項などについて【資料第1号-1~3】

資料第1-1号：昨年度「下命事項」だったものが「検討事項」に変わった。

4.障害当事者部会について、「障害理解を深めるための啓発活動等についての検討を行う」という点は変わらず、「他専門部会や関係団体と共同して開催し、障害当事者の役割や参画について検討する」となっている。これは、資料第2号でも相談するが、中断されている民生委員との交流会や他部会との交流を深めるという内容の説明で、今年度はこのような活動の方向になっている。

資料第1-2号：昨年度と変わらない。部会が増えていることもあり、次年度、次次年度以降どんな形で変わっていくかは、これからの検討になっていく。今年度は変わりなく実施を行う。

資料第1-3号：第1回目が7月で、今日当事者部会を実施しており、以降については今日の検討結果をもってどの部会とどんな形で進めていこうかと検討した上で他部会への投げかけや開催について決定していこうと思っている。今年度はコロナ禍ということもあり、3回くらいを目標にやっていたらと思っている。

(質問) 今年、座談会はないのか。

→コロナの状況なので、飲食を伴ったり、人を集めて話をしたりというのは、しばらくは難しい。

(質問) 部会のことではないが、去年の9月に開いた東京都の交流会の計画は出ているか。

→今年はまだ出ていないようだ。今年はどうな形になるか、参集型かオンラインになるかわからないが、お知らせがあったら皆さんにすぐお知らせする。

## (2) 令和2年度第3回障害当事者部会の振り返り【資料第2号】

### 1. 民生・児童委員との交流会の実施

民生・児童委員から出来れば集まって交流したいという希望が出ていて、ワクチン接種が進めば実施したいという方向になっている。それについての皆さんのご意見を伺いたい。

(質問) 民生委員がどんな仕事をしているかよくわからない。

→200世帯に一人で子供・障害・高齢者等の色々な相談を受け止めてくれて、文京区の担当窓口や支援機関につなげてくれる。行政は敷居が高いので同じ住民の中で気軽に相談できる人であり、厚生労働大臣から委嘱されているボランティアでもある。地域で意欲のある人がやっていて、今成り手が減っている。対面でないとできないと言っている民生委員がいるが、コロナ禍でもどうやったらできるか工夫を考えて欲しいし、皆さんの方からも提案していただきたい。民生委員の方々にも障害の理解を早く再スタートして欲しいし、今年度中は工夫をしてやっていきたい。早く皆さんとも関係を作って欲しい。

会長の話を受けていかかでしょうか。

・コロナが落ち着いたらぜひやりたい。

事務局: 民生委員さんは小規模ではなく、顔を合わせてというのを希望しているので、コロナの状況を見つつ、また色々相談させてください。安全に、かつ延ばさずに実施する方向に進めたい。

・委員の住む地域の民生委員と会って、話せるといい。誰が担当か知るだけでも大事。また、民生委員の方にお願ひしたいのは、これからは相談といっても、対面だけでなく、Zoomやハイブリッドに慣れていただくということを活動の中に入れていくということ。何もやらないということはコロナに負けたということになってしまうので、安全を確保しながら、積極的に発言していつてもらいたい。

・交流の機会があれば直接言いたいと思っていて、毎年区報に民生委員の名前が載るが、新しく民生委員になったら、一軒一軒挨拶回りをしてもらいたい。ハイブリッド方式などはコロナ禍においての一つの方法と考えて、許す限りは直接会って、具体的にこのように助けてくださいとかを示せばいいなと思っている。民生委員の方々がやりたいと言ってくれるのはありがたいことなので、ぜひ交流会を開いていただきたい。

### 2. 次年度・次年度の障害当事者部会の活動・方向性

《令和3年度と取り組みについて～他部会との交流について～》

概ね賛成の意見をいただいているので今年度の活動で他部会との交流会を進める予定。皆さんに聞きたいのは、五つの部会のどの部会に関心があって交流をしたいかという点。

(質問) 地域生活支援専門部会というのはどんな部会か。

→地域生活拠点という文京区を四つの地区単位(本富士、駒込、富坂、大塚)に分けて地域拠点を  
作ることに伴って、地区の特性を理解した上でどうしたら地域の人たちとうまく連携していける  
かということで立ち上がった部会で、地域生活拠点での話や地域特有の特性について話し合うこ  
とが中心となっている。

事務局:事務局の方で預からせていただいて、先生からも意見いただいているので、どこと交流す  
るのがいいか事務局と検討してご提案させていただければと思います。

(質問) 前にあったと思うのですが、専門部会のやっている内容が書かれているものはないか。それ  
を改めて表のようなものを作れないか。

→主管課とも相談して資料があるか確認して後日お送りできるか考える。

### 3.令和4年度以降の体制について

先ほど会長の話にもあったが、部会の数が多く、当事者部会がどんな形で何を行っていきたく  
いか意見をいただいた。元々自立支援協議会自身が当事者の方々のものであるべきなので、当事者  
部会と親会を一緒にして議論していく場の提案をさせていただいた。皆様からは、話しやすさとい  
う点から単独で継続したいという意見が4名の方からあった。単独で継続していくとなった時に、  
当事者部会として何をしていくか、ご意見を伺いたい。

・前にも言っていると思うが、文京区の民生委員は幅広く活動していて家庭訪問していると思うの  
だが、私の町会では一度も会ったことがない。もっとお互いの意思疎通を図ったほうがより良  
く常日頃から思っている。

・これまで活動の中でお互いのことをとてもわかり合えたので、わかり合うということをこのグル  
ープだけのものにしないで、より多くの方とわかり合っていたらいいと期待している。そうい  
う意味からも民生委員との交流会や他の部会との交流も同じようにとらえている。ぜひ皆さんの  
ことを知っていただく場と思ってご活動いただけるといいなと期待している。支援者の方々や  
何人かで参加するなど、ぜひ前向きに考えて欲しい。

・他の部会に傍聴という形で見学してもよいかもしれない。

### 4.どのような場があったら参画したいか

・他の四部会に皆さんの声を反映していくことが極めて大事で、皆さんが参画することによって、  
委員の理解が深まると同時に、運営の仕方に工夫をしなければいけないということが大切。  
例えば、資料の作り方、資料を作る前に説明して意見を聞く、単に参加するだけではない。当事者  
部会に参画することで色々な合理的配慮をしないといけない。そういうことが大切。知らない  
部会に出るのは心配になるが、出る前に事前に情報が欲しい、説明をして欲しい、資料を用意し

ほしいということをやしながら、そういう仕組みを自立支援協議会に作りたい。そこから始まっていく。その意味で各専門部会に皆さんの声を届けることを一緒に考えていきたい。そのことが大切になってくる。

#### その他

- ・オリパラの動きが全くないので、不安を感じている。招待状も届かない。
- ・自己紹介の時に言い忘れたが、今視覚障害者に怖い状況が広がっていて、コロナ禍で歩道を歩く人が減ったせいで、自転車すごいスピードで飛ばしている。点字ブロックに片足を乗せて歩くと、狭い所を通られて怖い。荷物がぶつかったり、白杖を車輪に巻き込まれたりしたこともある。自転車のルールが徹底できないかなと思っている。オリパラは、視覚障害者への配慮については薄いという報告を受けている。

#### 5. 閉会の挨拶 障害福祉課課長より

区役所でも今回のようなハイブリッド開催に徐々に慣れてきている。今後はこういった開催の仕方が増えていくし、進めていきたいと思っている。今日は、民生委員との交流会や当事者部会のあり方についてご意見いただいたので、事務局の方でも検討してより良い形で来年度に繋げていきたい。